

今月のことば

～保育のビタミン～



言えなかった言葉たちは、
どうしていますか

佐々木 哲生
ささき てっしょう

メールなら、書きかけを未送信フォルダに保存しておいて、後から送るということもできますが、その時に言おうと思ったのに口でできなかった言葉を改めて言う機会は、なかなか巡ってこないものです。

また、日常生活において、いつも本当のことばかりを口にするのは、友だちの少ない人生を覚悟できなければ難しいものです。そのため、普段はあたりさわりのない内容の会話に終始したり、時には言いかけた言葉を思わず飲み込んでしまうこともあったりします。

園での、子どもたちや保護者の方との関わりを思い返してみると、「あの時は、こんなふうに言葉かけをしたら良かったかもしれない」と反省するようなことも、しばしばあるのはそのためです。

もしかすると、子どもたちも、あなたに言おうとして言えなかった言葉を、その小さな胸に抱えていたりするのではないのでしょうか。また、まだ幼いが故に、その思いをうまく言葉にできなくて、もどかしくせつない思いをすることもあるのかもしれませんが、でも、残念ながら、私たちの耳は、言葉にならない声を聞くことはできません。

朝のあいさつをしようと思ったのに声に出せなかった、給食のときお代わりをしたかったのに言えなかった、トイレに行きたかったのに言えなかった等々、あなたが気付かないまま子どもたちが飲み込んでしまった言葉って、いったいどれくらいあるのでしょうか。

だから、言えなかった言葉たち、いうなれば子どもたちの「声なき声」に、少しでも心を寄せる先生に…、なっってはもらえませんか？